

# 信越企業 攻めの一手

めっき加工を手掛ける塚田理研工業（長野県駒ヶ根市）は、めっきに使ったニッケルを含んだ水洗水をめっき液に再生するシステムを開発した。世界情勢の変化や電気自動車（EV）の普及などで、ニッケルなどレアメタルの価格は上昇傾向が続く。新システムでコストを抑えると同時に、環境配慮の姿勢を一段とアピールする。

同社は業界でもいち早くプラスチックめっきの量産化に成功し、自動車の内外装材向けなどで受注を伸ばしてきた。プラスチック以外でもプリント基板の表面処理加工、電磁波シールドめっきなど様々なめっきを手掛ける。

早くから環境対応にも熱心に取り組んでおり、1971年にはイオン交換式の排水処理装置を導入し、金属と水を分離して両方とも

## 塚田理研工業

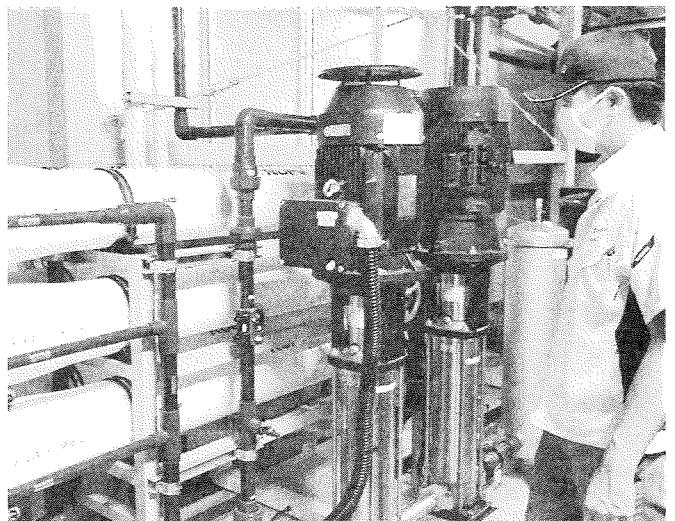
再利用できるようにした。2005年に整備した「排水リサイクルセンター」では、ニッケルや銅などを金属ごとにイオン交換樹脂に吸着させた後で分離して回収する。金属を含んだスラッジとして精錬会社などに売却している。

### めっきに使った水洗水を再生

ただ、ニッケルなどを含むスラッジは「売却しても純粋な金属に比べると価格が大幅に安い」（下島聡社長）。レアメタルの価格上昇が続いていたこともあり「めっき液そのものとして再生できれば、さらなるコスト削減につながる」と考えた。

新たに開発したシステムはニッケルめっきを施したプラスチックなどの水洗水を逆浸透膜を使って濃縮ろ過し、ニッケルめっき液として再生できるようにした。

システムの整備には全体で7500万円を投じた。21年11月から稼働しており「着実に成果をあげつつあり



逆浸透膜を使ったニッケル回収装置

## コスト抑制と環境配慮 両立

る」。年間で3500万円程度のコスト削減につながると期待する。

ロシアのウクライナ侵襲など世界情勢の変化やEVなど新たな需要の高まりなどから、レアメタルの需要開発も進めている。

は今後も拡大傾向が続く可。下島社長は「コストだけでなく環境面でも効果は大ケルなどの調達コスト上昇を受けて、メッキ価格の引き上げなどを打ち出している。競争環境の厳しさもあって容易には進まないという。

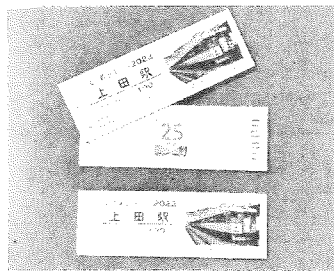
それだけに今後もリサイクルなどによるコスト削減に一段と力を入れていく方針。すでに、導入した新システムの対象となるめっきの範囲を広げるための研究

る。新発田には有樹外の生産体制を確立し、市内NTT東のモービルマッピングシステム

## 上田駅で来月「鉄道まつり」

### しなの鉄道など3社協力

しなの鉄道（長野県上田市）と上田電鉄（同）、JR東日本は10月1日に上田駅で「うえだ鉄道まつり2022」を開催する。家族連れや鉄道ファン向けに、記念入場券などを販売する。上田市で営業する3社



しなの鉄道が販売する記念入場券

### 記念入場券やレール計り売り

が協力してイベントをPRし集客増につなげる。しなの鉄道は開業25周年を記念したピンバッジなどを販売するほか、実際に使用していたレールを1枚単位で切断する「レールの計り売り」を実施する。上田電鉄は列車の先頭につけるヘッドマークを5万円で購入販売する。JR東日本は線路を点検する作業車などを展示する。

初めて実施した2021年に続く開催となる。しなの鉄道の担当者によると、前回は好評だったことから今回の開催を決めたという。

### 特別メニューを ポッキリ価格で

#### 新潟商議所が冊子

新潟商工会議所は10月1日から、新潟市内の飲食店を支援する取り組みを始める。専用の冊子「ポッキリパスポート」を作成し、飲食店側が用意したお得感のある特別メニューを掲載する。2021年も実施した取り組みで、飲食店で



の消費喚起につなげる。期間は10月1日から11月30日まで。市内の飲食店65店舗が参加する。専用の冊子は無料で、市内の商業施設や区役所などで取り組み、飲食店で

### 人 事

（地名は支店長）  
大光銀行  
（10月3日）佐、小旗康英（佐和田支店長）金子俊博（村松、滝沢支店）

# 信越

新潟支局 0225-2222-75147  
長野支局 0226-3322-31011  
松本支局 0263-3361-3017